

「参加してよかったです」という声が聞ける事業に

稲敷市姉妹都市交流委員会

会長 石井 道朗



隔年実施の稲敷市親善大使海外派遣事業（以下「派遣事業」）、サーモンアーム市親善訪問団受入事業（以下「受入事業」）が実施されます。本会では、引き続きこれらの事業に対し、会員全員で協力し、支援していきたいと思います。

さて、今年8月、第11回派遣事業が実施されました。団員19人と指導員4人、合計23人の派遣団となりました。特に今回、市当局のご理解により、長年の念願でもありました担当部署の職員の派遣が実現できました。このことは、今後、派遣団員の安全・安心の確保そして事業の継続・発展のためには、欠くことのできない貴重な現状視察になりました。この視察で得たノウハウを今後の事業の運営にさらに生かせるよう支援していきたいと思います。

最近、派遣・受入事業をしていて特に感じることは、参加者の事業に対する取り組む姿勢が年々積極的になっているような気がします。（派遣・受入後のアンケートより）皆様方のこの事業に対するご理解とご支援に心から感謝申し上げます。

当委員会としても引き続き、発案者の思いと団員の安全・安心を基調とし、派遣・受入事業に「参加してよかったです」という声がたくさん聴けるように、これらの事業を支援して参りたいと思います。

稲敷市観光ガイドブック英語版を作成しました！

姉妹都市交流委員会会員が、稲敷市観光ガイドブックの英訳作業に協力しました。

稲敷市の良いところを、海外の方にも知つてもらえる機会となることを願っています。

※ガイドブックは市内公共施設に配置しています。



INFORMATION

会員募集！あなたも国際交流しませんか？

稲敷市姉妹都市交流委員会

親善大使海外派遣事業や親善訪問団受入事業など、稲敷市が実施する姉妹都市（サーモンアーム市）との幅広い活動に協力し、交流活動を展開しています。

問合せ・申込は
市民協働課内事務局：
029-892-2000(代)まで

○姉妹都市交流事業の詳細は
稲敷市ホームページをご覧ください

稲敷市 姉妹都市交流 検索



交流委員会広報委員

山本 彰治（委員長）、塚本 みち子（委員）、倉田 九豪（委員）

姉妹都市交流委員会の活動

姉妹都市交流委員会は、市が実施する姉妹都市交流事業を支援する組織として活動している団体です。

8月の稲敷市親善大使海外派遣事業では、交流委員会の会員が講師となり、姉妹都市交流の歴史や英会話など、派遣団員の事前研修を実施しました。

今後とも、市と協力しながら、両市の友好親善の仲介役としての役割を果たせるよう、努めてまいります。



INASHIKI

姉妹都市

—世界をつなぐ笑顔と勇気—

No.25
2019.12



○ 身近な国際交流を体験できる絶好のチャンスです！

ホストファミリーの募集について

英語が話せなく
ても大丈夫！

○令和2年3月23日（月）から30日（月）まで、カナダ・サーモンアーム市訪問団が稲敷市へ来訪します。

○中学生～大学生までの子どもたちをホームステイさせていただける「ホストファミリー」を募集します。（同年代の方にメインホストとなっていただきます。）

○受入れに際しては、特別な個室やベッド、洋食等を用意する必要はありません。

【問合せ・申込は 市民協働課まで TEL029-892-2000（代）】

○姉妹都市交流事業（海外派遣・受入）の詳細は稲敷市ホームページ

<http://www.city.inashiki.lg.jp/index.html> (目的別→市政→プロフィール→姉妹都市・国際交流事業)

●稲敷市・稲敷市姉妹都市交流委員会●



いなしき
稲敷いなのすけ

親善大使海外派遣事業及び親善訪問団受入の日程について

派遣 受入

元年度	R元年8月実施済	R2年3月予定
2年度	なし	なし
3年度	R3年8月予定	R4年3月予定
4年度	なし	なし

※派遣事業における個人負担について

親善大使海外派遣事業の派遣費用は、概ね30万円です。
派遣費用の半分（上限額15万円）は稲敷市より補助されますので、実質約15万円程度の個人負担となります。

編集後記

限りある写真の中で、この派遣事業の感動がどのくらい伝えられたでしょうか。毎回の事ですが、心配でなりません。しかし、団員の心の中には、写真だけでは表せられない、感動や友情がしっかりと刻まれていることでしょう。今回生まれた友情や絆が、次の学年の絆や友情へつながっていくこと、今回生まれた感動や新たな目標の蓄が、次の時代に花開くことを、心から期待しています。

編集：稲敷市姉妹都市交流委員会広報委員・稲敷市 市民協働課

第11回 稲敷市親善大使海外派遣団 団長

稻敷市立沼里小学校 校長 内藤 信

中国の故事成句の一つに『飲水思源』という言葉があります。「水を飲む者はその源に思いを致せ」。言い換えると「井戸の水を飲む際は、最初に井戸を掘った人の苦労を思え」という意味だそうです。今回の派遣訪問中にシャスワップ湖の畔にそびえ立つ「成毛平昌メモリアルツリー」を目の当たりにした時に、この『飲水思源』を思い起しました。

時代は令和に移りましたが、故成毛平昌氏（旧東村長）の「子どもたちに国際感覚を！」という教えが、30有余年を過ぎた現在もさまざまと受け継がれています。このサーモンアームへの派遣は私自身、自分を見つめ直す貴重な体験となりました。市当局や姉妹都市交流委員会の皆様に感謝申し上げます。

《アラン・ハリソン市長とともに》



江戸崎中学校 2年 市川陽翔
カナダに行く前は、英語でコミュニケーションがとれるかな、ホームステイ先の家に馴染めなかつたらどうしようという思いと、カナダの異文化に触れたい、たくさん友達を作りたいという思い、不安と期待が入り混じっていました。しかし、対面式の時に、メインホストのディランの笑顔を見た瞬間に不安が吹き飛びました。これからは、もっと英語の勉強をして、特にリスニング力を上げて、またカナダにホームステイしたいです。このような機会を頂けた事で、カナダの文化や家族の大切さ、言葉の大切さが分かりました。忘れられないこの経験を今後に生かしていきたいです。ずっと心に残るサーモンアームの滞在でした。本当にありがとうございました。

新利根中学校 1年 宮本 舞
「WOW！」それがどこへ行っても私の口ぐせでした。カナダの景色、人の様子、建物全てが見たことのないもの。私にとっては行くところ全てが大きなびっくり箱みたいでした。
私がカナダで一番学び、影響を受けたことは「伝える」ということと友情の大切さです。その学びの扉はホストファミリーと対面したときを開かれました。サーモンアームでは、充実した毎日を過ごすことができました。私はたくさんの人にお世話になり、たくさんの人の温かさに触れました。いろいろな人からもらった温かさを今度は自分が返せる人になります。そして、今回学んだり感じたりしたことを大切にしていきたいです。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

東中学校 2年 根本聖己
今回、サーモンアームに行けることになって嬉しいと思う反面、ホームステイをするということに少し抵抗がありました。理由は、異国の方で1週間ホストファミリーとうまくコミュニケーションがとれるか不安だったからです。しかし、その不安を忘れるくらいサーモンアームでの毎日は貴重な体験でした。一日の中でたくさんの経験をしたり、体験することができたので、充実した日々を送ることができました。
今回このホームステイを経験したこと、世界の広さや異なる文化に触れる事ができて本当に良かったです。カナダに行くことを勧めてくれた母親やお世話になったホストファミリー、この事業の関係者の皆様、本当にありがとうございました。

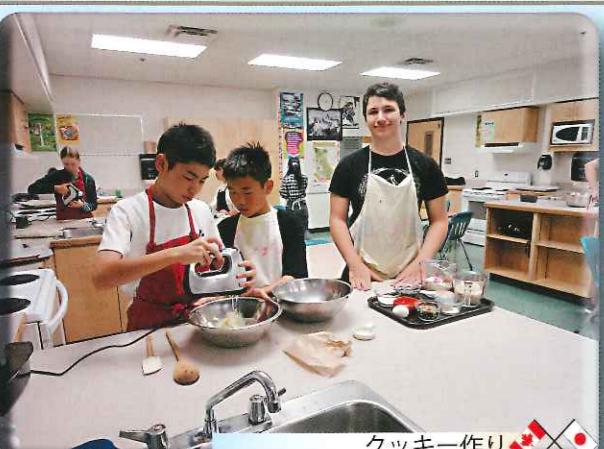
派遣団員のアンケート結果（抜粋）

Q. 派遣事業に参加して感じたことなど

- ◎事前研修から楽しむことができた。カナダと日本の生活様式の違いや、親善大使の心構えを教えてくれたので、心配することなくカナダへ行くことができた。
- ◎初めての海外だったので、とても良い経験ができた。
- ◎ホストファミリーがとても優しかった。理解できるよう英語を話してくれ、一生懸命話すと聞き取ろうしてくれた。
- ◎和英辞書をたくさん使った。

Q. 特によく使った英語は？

- ◎Sure・OK・Yeh（いいよ、分かった等）
 - ◎How was～（○○はどうだった？）
 - ◎Can I～（○○してもいいですか？）
 - ◎Can I help you？（何か手伝いますか？）
 - ◎What's your recommendation.（おすすめは何ですか？）
 - ◎I'm happy.（嬉しいです）
 - ◎Thank you for dinner.（夕食をありがとうございます）
- *カナダでは「ごちそうさま」を言う習慣が無いので、その代わりに・・・



クッキー作り



市長表敬訪問



水上アクティビティ



アーチェリー



先住民族の家



さよならパーティー



ボウ滝



別れの時

稲敷市姉妹都市交流委員会懇談会

